

＜事業所向け＞ 献血に関する アンケート調査について



＜けんけつちゃんとコラボレーション＞

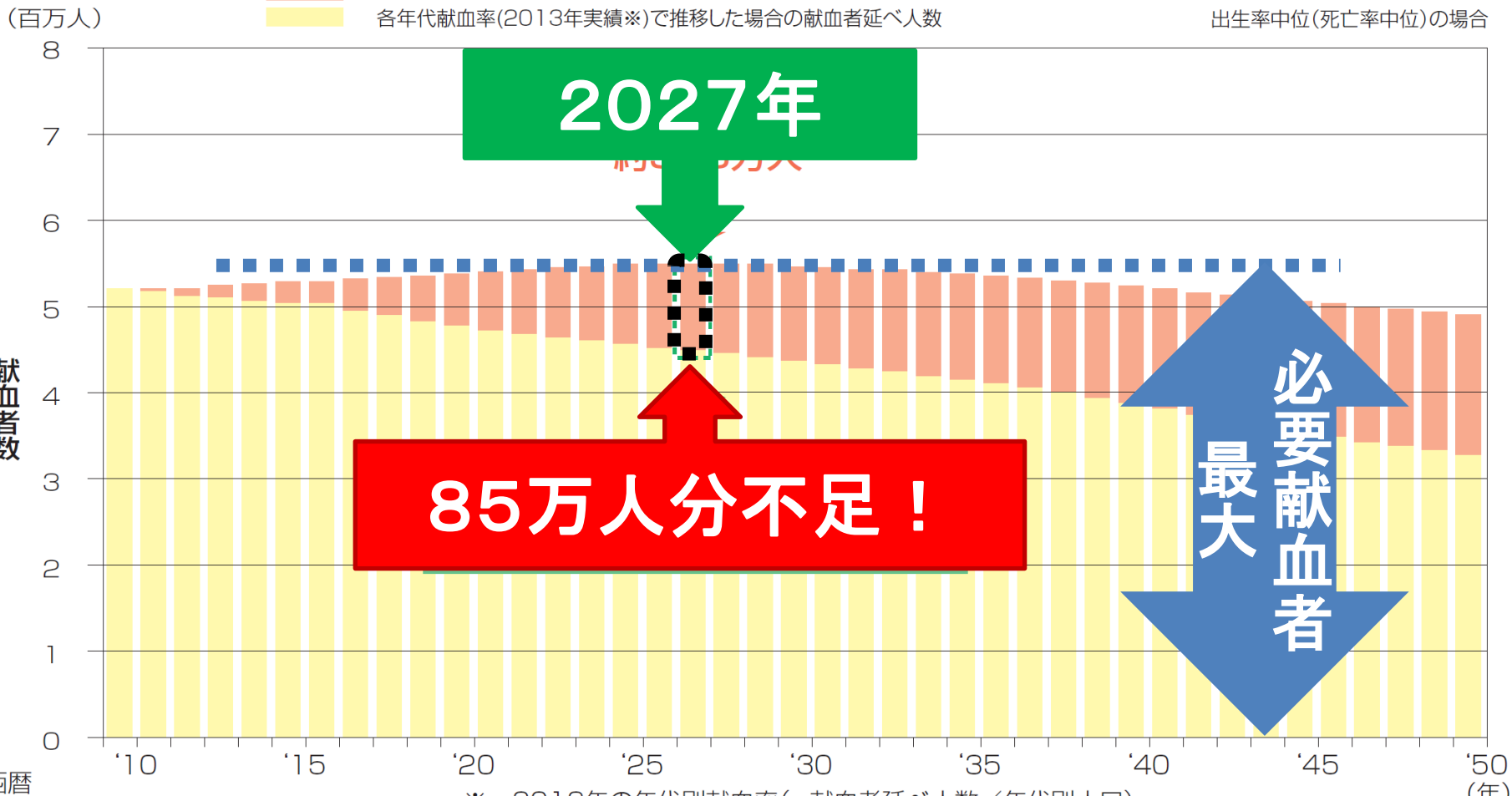
©宮城県・旭プロダクション

平成28年2月9日(火)

薬事衛生技術職員研修会

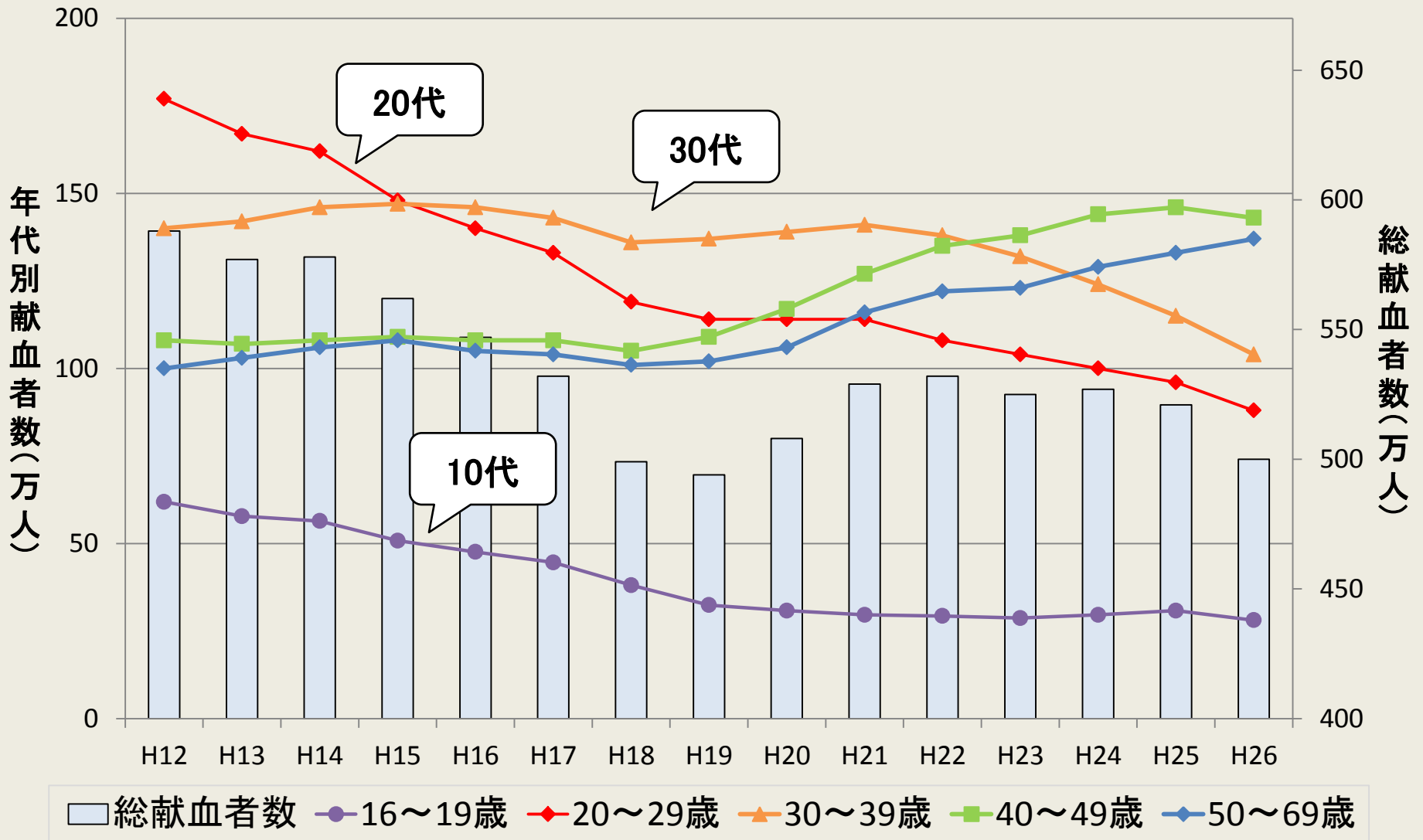
2027年には 献血者85万人分の血液が不足！！

■ + ■ 必要献血者延べ人数の推計値
■ 献血不足者数
■ 各年代献血率(2013年実績※)で推移した場合の献血者延べ人数



※ 2013年の年代別献血率(=献血者延べ人数/年代別人口)
 16歳~19歳:6.4% 20代:7.4% 30代:6.9% 40代:8.1% 50代:6.2% 60代:2.0%

全国の年代別献血者数



2つのキーワード

2つのキーワード

2020

厚生労働省 献血推進に係る新たな中期目標 「献血推進2020」

- ・若年層の献血者数の増加
- ・安定的な集団(事業所)献血の確保
- ・複数回献血の増加(リピーター増加)
- ・献血の周知度の上昇(セミナー実施)

9545

宮城県赤十字血液センター 「9545Action」

- ・400mL献血率・・・95%
- ・献血バス1日1台の献血者・・・45人

- バス1台・・・1日50人位採血
- 採血時間・・・1人20～30分程
- 400mL献血・・・60%以上を採血
- 事業所献血と街頭献血



経緯及び目的

少子高齢化に伴い、
近い将来、献血者数が大幅に不足する恐れ

安定的な集団献血の
確保

→事業所数の拡充

複数回献血の増加

→受入回数の増加
受入の継続

アンケートの実施

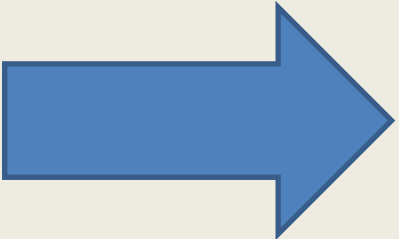
・献血バスの受入状況、理由や要望を調査

調査概要

「9545ACTION」 → 1台1日あたり45人目標

- ①「宮城県工場通覧(平成26年版)」に掲載されている工場
- ②その他の事業所

→ 従業員50人以上



調査対象事業所
251件

調査結果

<集計結果>

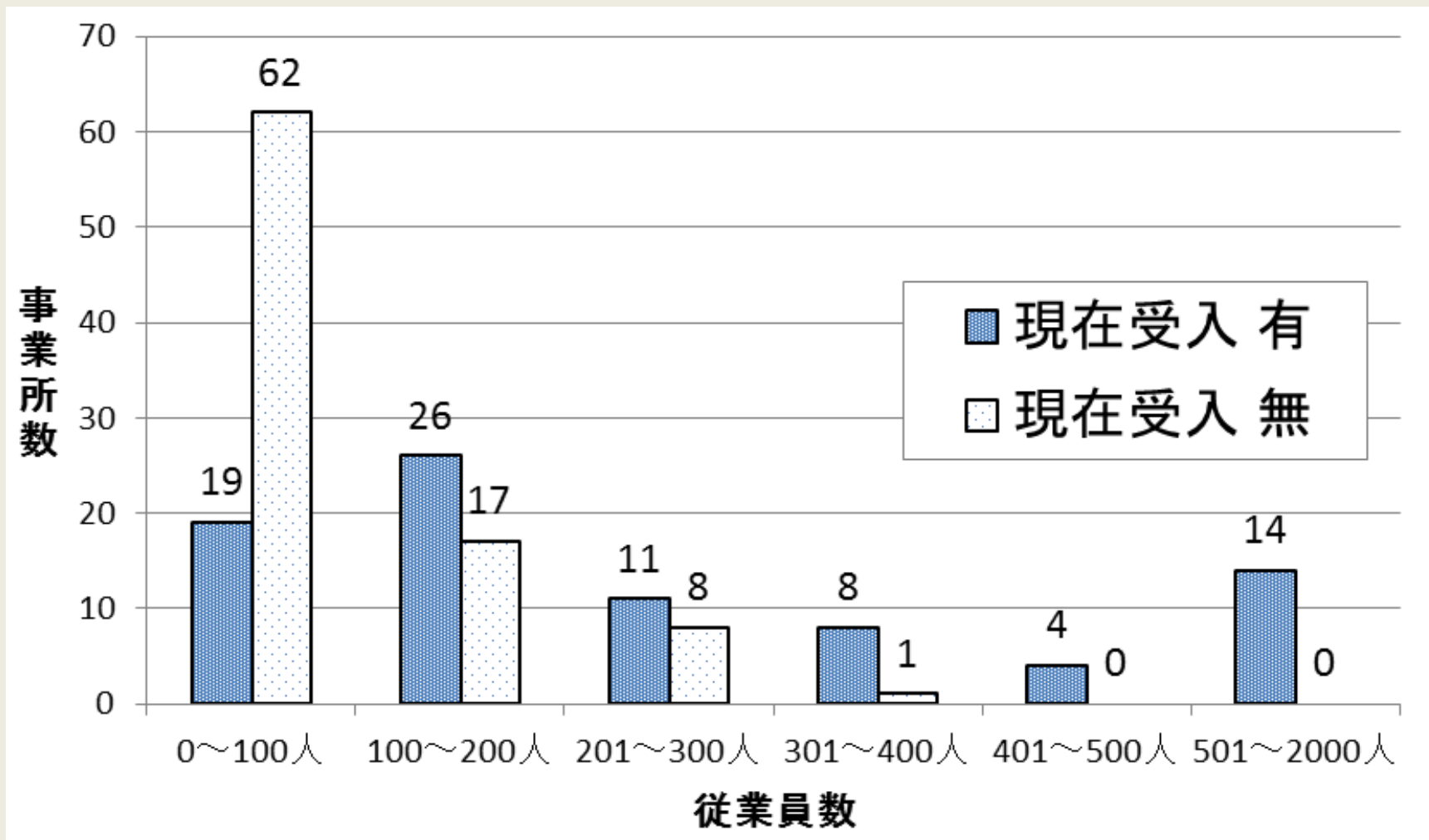
回答		現在の受入	今後の献血バスの受入	
アンケート送付	あり	あり 82	継続可能 79	回数増…可能 34
			不明 3	回数増…不可 45
	なし	なし 88		受入可能 31
				受入不可 54
				無回答 3
251	なし 81			

※ 数字は事業所数

調査結果

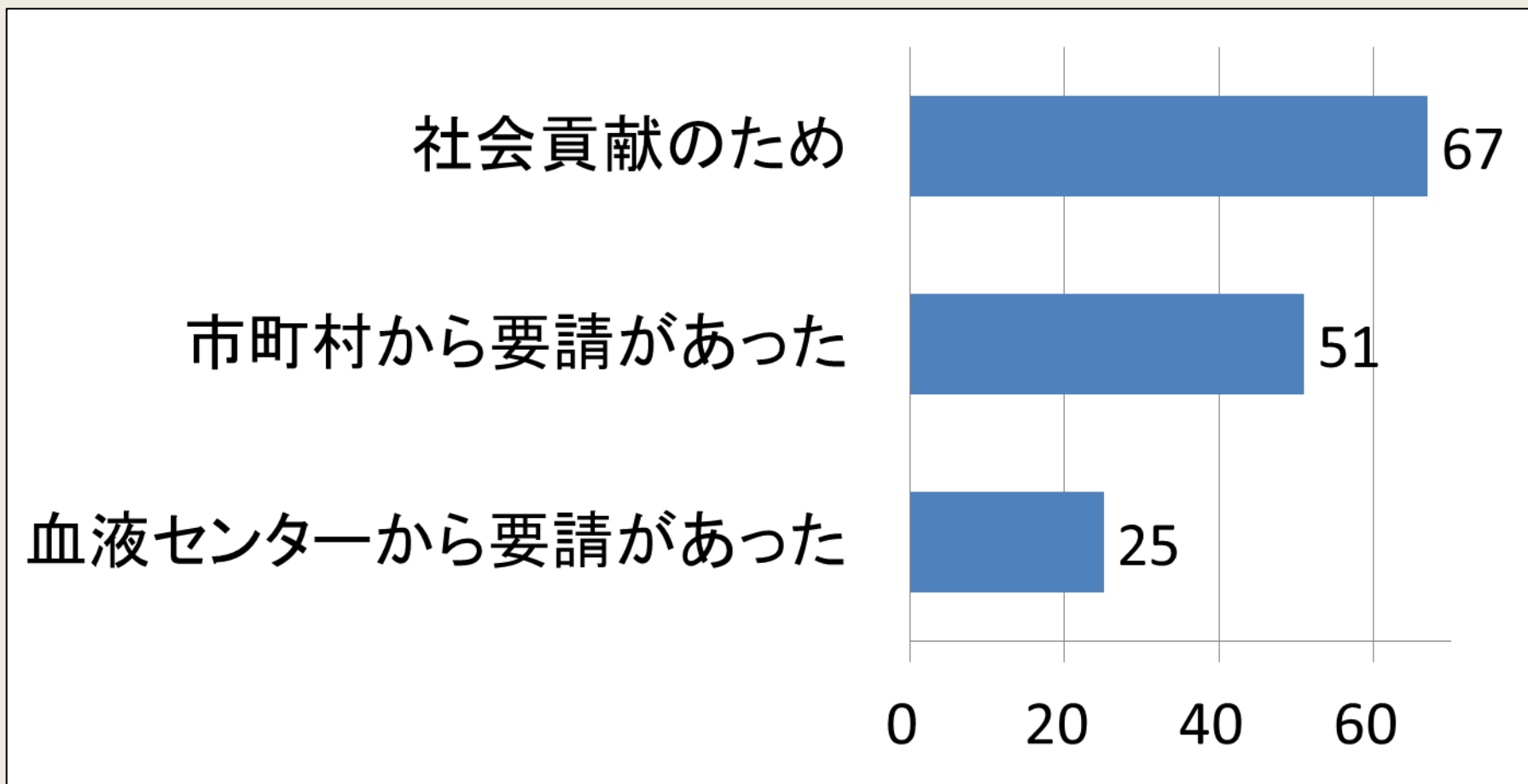
＜全事業所対象＞

従業員別事業所数



調査結果

献血バス受入を実施している理由(複数回答可)(上位3項目)



調査結果

献血バス受入の不満点(複数回答可)(上位3項目)

一定時間内に多数の従業員を
献血に協力させるのが難しい

53

多忙のため、従業員に
献血に協力させることが難しい

25

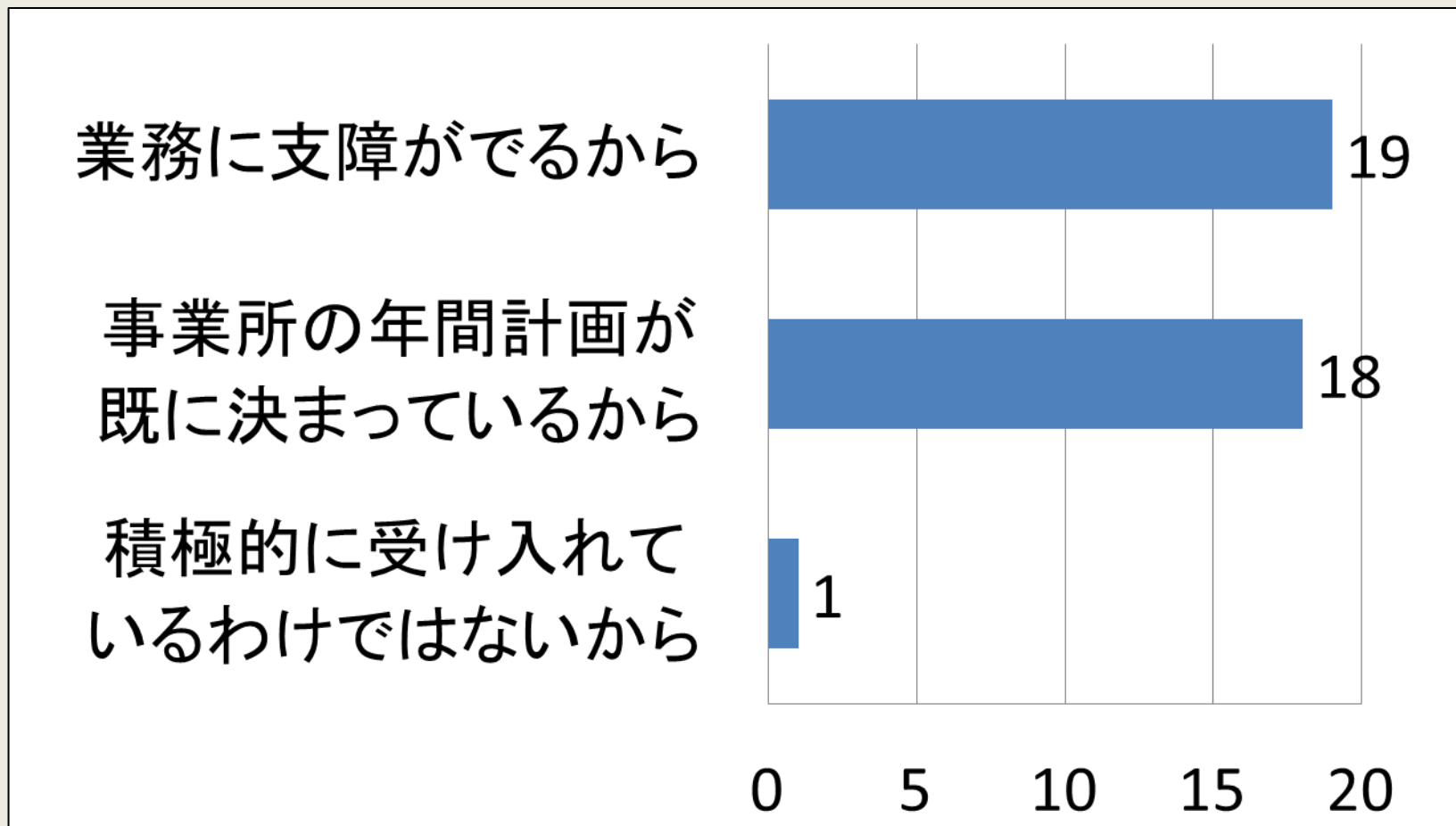
時間の調整などが難しい

15

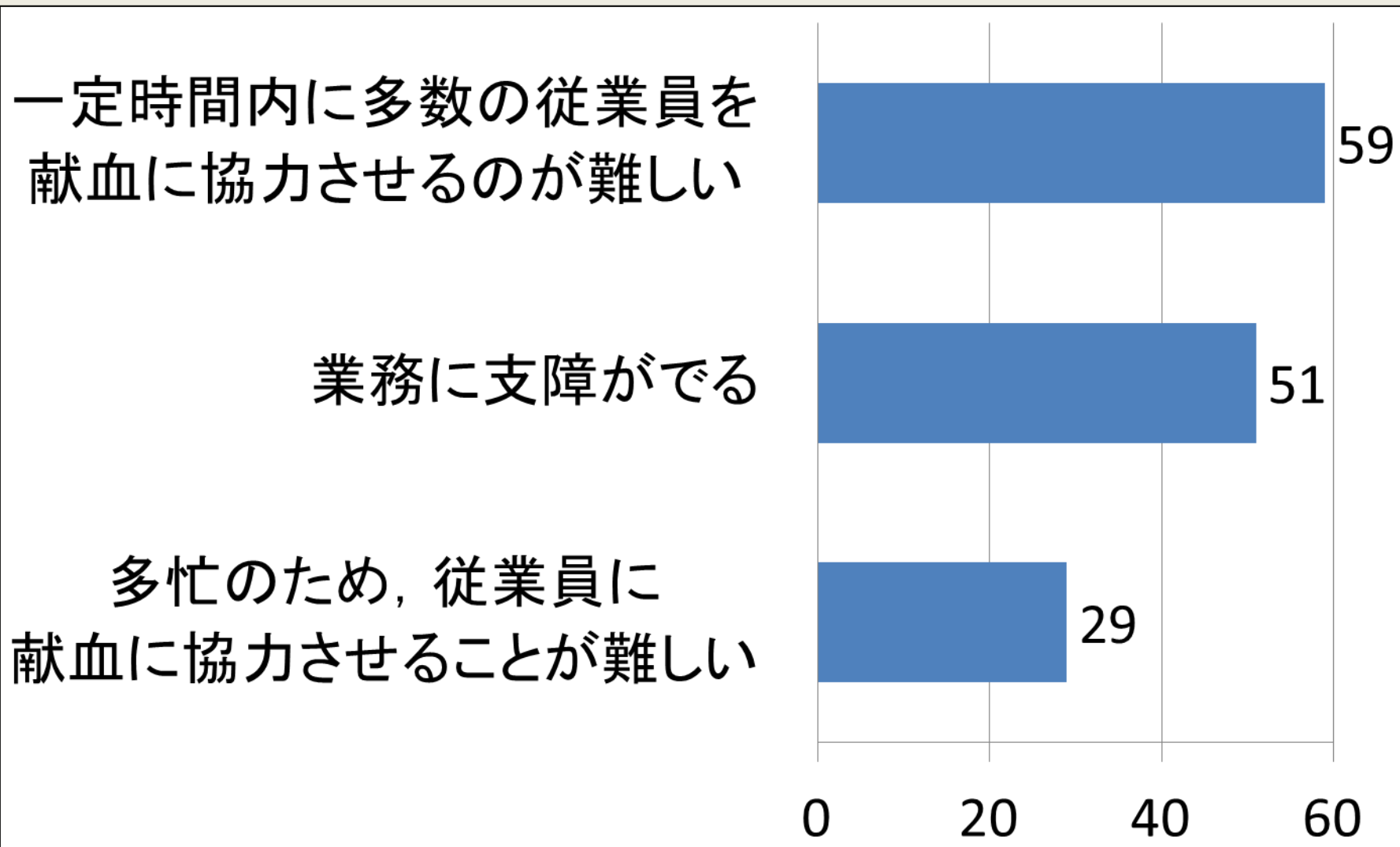
0 10 20 30 40 50

調査結果

受入回数を増やすことが難しい理由(複数回答可)(上位3項目)

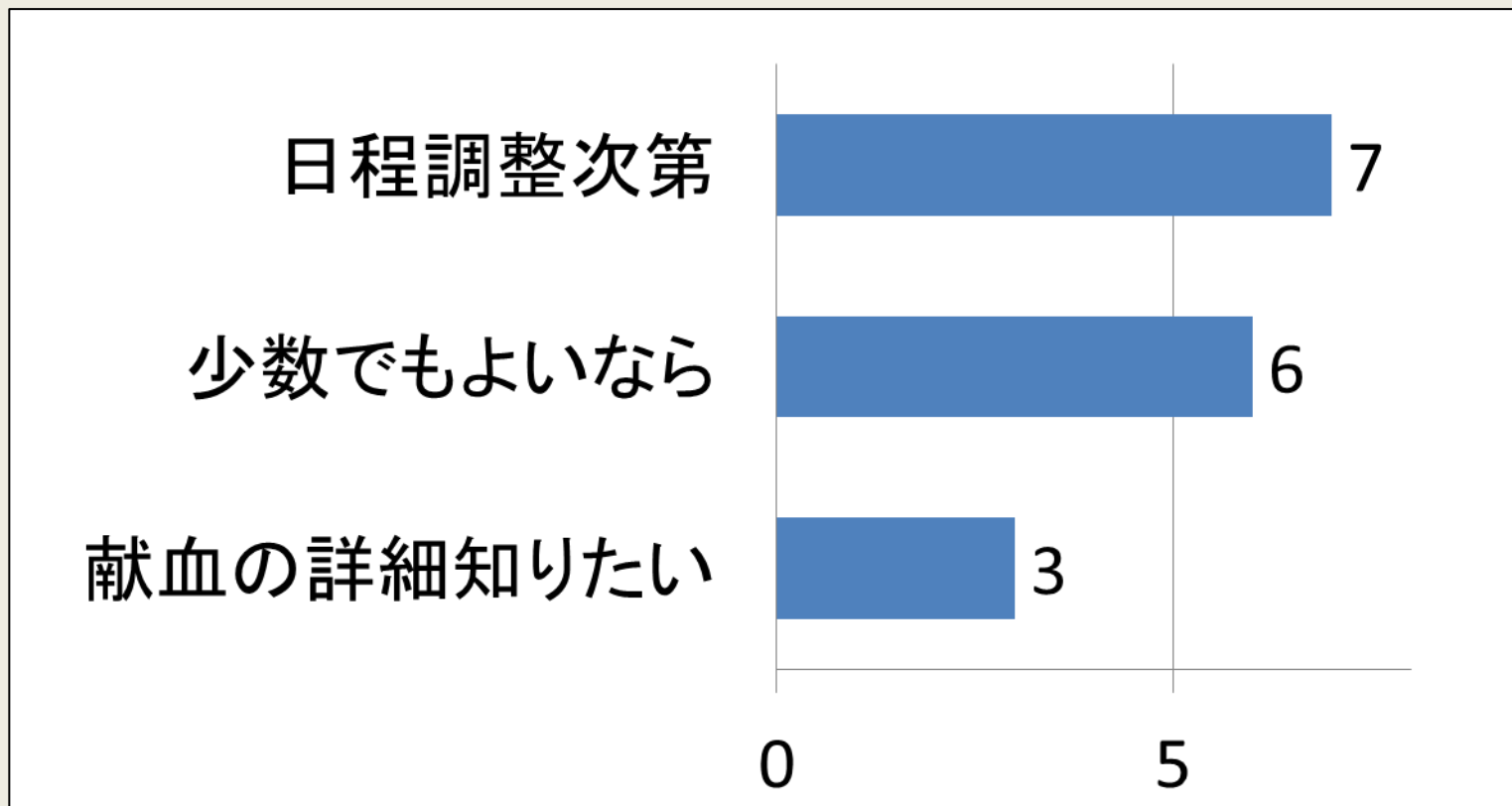


献血バス受入を実施していない理由(複数回答可)(上位3項目)



調査結果

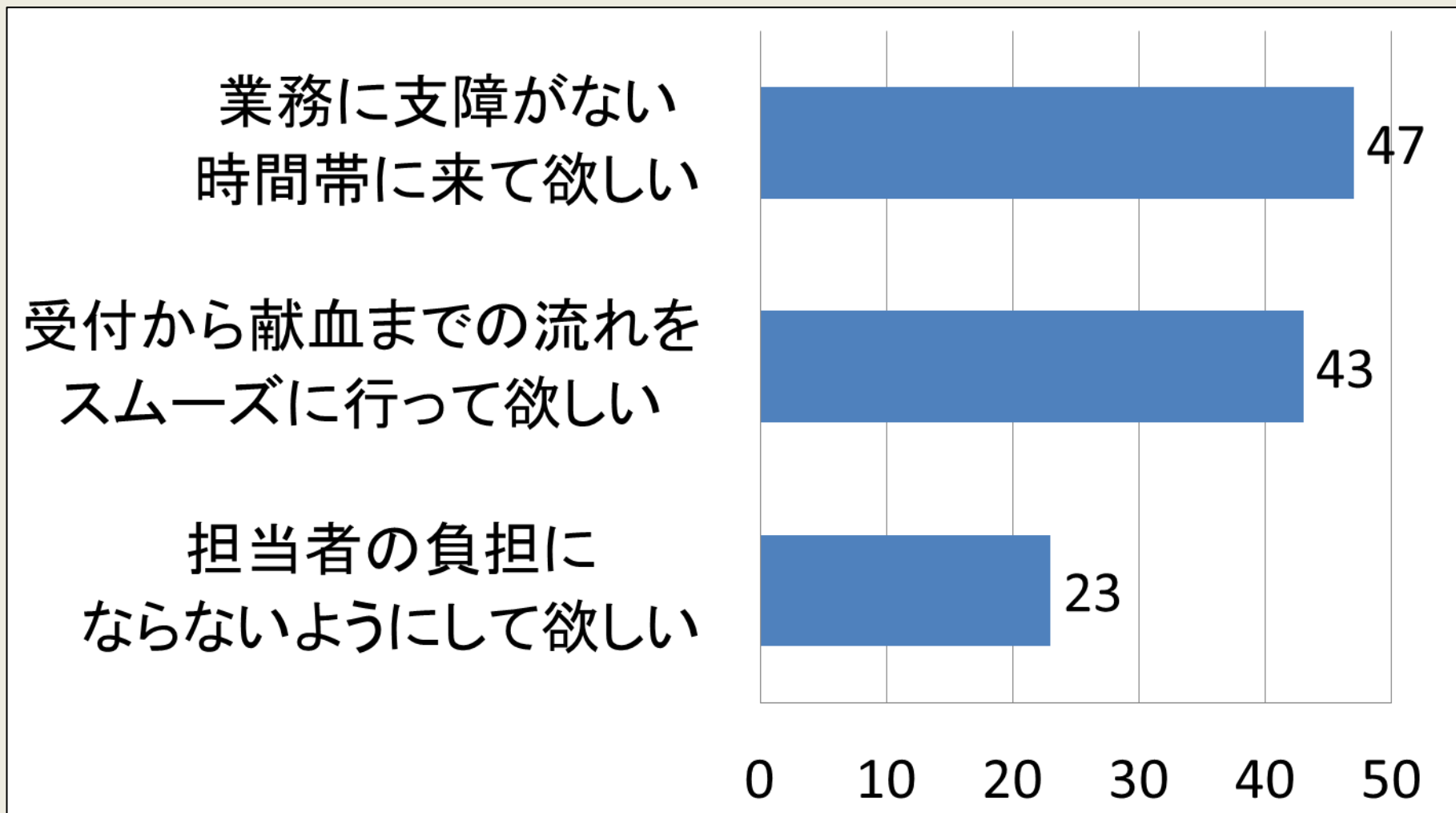
献血バス受入の条件(自由回答)(上位3項目)



調査結果

＜全事業所対象＞

積極的に献血バスを受入るための要望（複数回答可）（上位3項目）



調査結果

＜全事業所対象＞

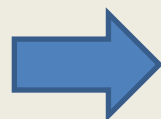
献血バス受入に関する意見（自由回答）（上位4件）

- ・少人数なら協力可能。（12件）
- ・協力出来ない。（8件）
- ・広報活動してはどうか。
広報の協力は可能である。（8件）
- ・事業所以外で行い、そこに出向くことは可能。（8件）

まとめ ①

(1) 受入回数の増加や新規受入が見込める

受入のある事業所
受入回数を増やせる(34件)
受入のない事業所
条件付きで受入可能(31件)



市町村,
宮城県赤十字血液セ
ンターと連携し,
事業所訪問を実施

現在受入をしていないが,
「今後協力出来る」という事業
所があった。



事業所の探索方法に
問題

まとめ②

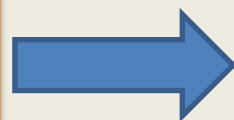
(2) 献血バス受入を実施している事業所では…

「受入を継続する」と回答した事業所…96%



献血事業に対する理解や協力体制が一度根付くと、継続して受入を実施してもらえる

受入理由を「社会貢献のため」と回答した事業所…81.7%



実施事業所の公表等、表彰規定の改定

(3) 広報活動

- ・「献血の詳細が知りたい」
- ・「広報活動してはどうか。広報の協力は可能」
など



- ・事業所向けの
広報活動
- ・献血実施事業所内
での広報活動

- ・小規模事業所でも受入
- ・「一定時間内に多数の従業員を献血させることが難しい」という回答が不満や、受入のない理由で最多



献血バス受入事例を
モデルケースとして
紹介。

ご清聴ありがとうございました



〈けんけつちゃんとコラボレーション〉

©宮城県・旭プロダクション